


『認知症サポーター』について

トンディは「認知症サポーター」って知ってる？

認知症サポーターは「認知症の人やその家族の応援者」だよ。90分の講座受けて、認知症サポーターの証としてボクもオレンジリング  貰ったよ。旭川では、バッジやカード持っている人もいるよ。



そうだね。「認知症を理解し、認知症の人や家族を温かく見守りや支援する認知症サポーターが一人でも増え、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりがみんなで出来ればいいね」ってことで、全国で始まったんだよ。

自分の出来る範囲で近所の方を気かけたり、見守りをしたり、ボランティアをしている認知症サポーターもいるよ。

そうなんだね。講座では「認知症の基礎知識、認知症の人や家族の想い、接し方など」の内容を学ぶことができたよ。

出前講座もできて、学校や企業、地域の老人クラブやサークルなど色々な所でも開催しているよ。申し込み・問い合わせ先は「認知症サポーター等養成事業事務局 (☎90-1449)」だよ。10人以上から申し込みができるけど、もし受けてみたいって人がいたら、永山地域包括支援センター (☎40-2323) でも相談できるよ。

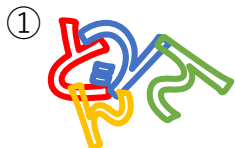
わかりやすい内容だから、受けたことがない人は受けてみるといいね！自分事としても認知症について知っておくことは大事な事だとボクもわかったよ。

シンボルカラーのオレンジは温かさを感じさせる色でもあり、「手助けします」という意味を持つとも言われているよ。僕はこの「認知症サポーターキャラバン」という事業のマスコットなんだ。「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」が、一步一步着実に進んでいくように応援しているよ。

【うらへ続く】⇒

ちょっと一息。脳トシ

ひらがなが重なり合っています。並び替えて一つの言葉にしてください。



「認知症とともに生きるための8か条」

① 認知症の診断で人生は終わらない

認知症と診断されたからといって、人生が終わりになるわけではありません。認知症とともに明るく生きている人やその家族が多くいます。それは、認知症によって不自由になったことをサポートしてくれる人が周りに多くおられるからです。

② 認知症の正しい情報を得よう

認知症がどんな病気なのか、正しい知識を得ることから、病気と向き合い付き合っていくことができます。

③ 制度を知り、活用しよう

医療・介護・福祉など、さまざまなサポートをしてくれる制度やサービスがあります。積極的に利用することで、本人も家族も元気になれます。

④ 家族だけで抱え込まないで

地域の本人、家族の集まりの場に行ってみましょう。「悩んでいるのは私だけではない」ことを実感します。仲間に出ると勇気百倍になります。

⑤ 仲間と支援者を探そう

仲間と出会うことで「自分一人ではない、同じように苦しみ、悩み、そして希望をもっている」人たちがいます。またそんな認知症の人や家族を支えようと思っている支援者も多くいます。同じ思いの人と話すだけで、気持ちが安らぎます。

⑥ 職場の上司や親戚などに病名を伝えよう

職場の上司や親戚、友人などに、思い切って病気のことを話してみましょう。今、困っている事も伝えましょう。

⑦ 社会や地域とつながろう

周囲の人に認知症だからと、偏見の目で見られるのではないかと、失敗することを見られるのが嫌などと家に引きこもっていると病気に悪い影響を与えます。進行予防には外出し、運動や人と話すことが大変重要です。

⑧ 家族で話し合っておきましょう

今後のことについては、医療・介護、自動車の免許返納、財産・意思決定のサポートなど家族で話し合っておきましょう。また、専門かにも相談しましょう。

